

2022 年 9 月 28 日

## 博報堂教育財団 第 15 回、16 回「日本研究フェロシップ」

## 成果報告書

## I. 研究成果概要

氏名（フリガナ）	MOHAMED Hanan Rafik（モハマッド ハナーン ラフィーク）
在住国名	エジプト・カイロ
所属・役職	カイロ大学文学部日本語日本文学科・専任教授
招聘回：招聘研究予定期間 （招聘研究期間）	第 15 回：2021 年 9 月 1 日～2022 年 8 月 31 日 （2021 年 4 月 22 日～2022 年 8 月 31 日）
受入機関	東京外国語大学
招聘研究テーマ	言語習得において障壁となる文化的な差異 ーアラブ人初級日本語学習の視点からー
研究目的	『みんなの日本語 I、II』の分析によりどの部分に学者が違和感を覚えるかを明らかにする。そのうえでその違和感を解消し、学習をより円滑にすべく、学習者の視野を言語の背後にある文化の理解まで広げるための対処方法の提案もすることである。

## 研究成果概要

## 1. どのように研究を進めたか（具体的に）

- ・『みんなの日本語 初級 I、II』の中からアラブ人日本語学習者にとって異文化である日本文化を理解するための鍵となるような語彙、表現、場面のリストアップをした。
- ・東京外国語大学の留学生センターの専門家、および元 ICU の日本語教育の専門家と研究内容について議論し、助言を得た。
- ・受入担当者と相談の結果、日本語とアラビア語の差異が際立つ挨拶に焦点を絞って分析することにした。
- ・アラビア語と日本語の挨拶の比較研究はこれまでなされていないため、日本語と英語、中国語等の比較に

関する先行研究を参考にして分析方法を決定した。

- ・受け入れ担当者と議論を重ね、時間的制約から今回の研究範囲を、気候、初対面、時間に関する挨拶に限定することとした。
- ・これらの挨拶について、アラブ圏で使われている教材の現状、アラブ人日本語学習者にとって障壁となる文化的な差異の所在、それへの対処方法の順で考察を行ない、その成果を論文として発表することとした。

## 2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に）

- ・『みんなの日本語 初級 I、II』の中からアラブ人日本語学習者にとって異文化である日本文化を理解するための鍵となるような語彙、表現、場面のリストアップをした。
- ・東京外国語大学の留学生センターの専門家、および元 ICU の日本語教育の専門家と研究内容について議論し、助言を得た。
- ・受入担当者と相談の結果、日本語とアラビア語の差異が際立つ挨拶に焦点を絞って分析することにした。
- ・アラビア語と日本語の挨拶の比較研究はこれまでなされていないため、日本語と英語、中国語等の比較に関する先行研究を参考にして分析方法を決定した。
- ・受け入担当者と議論を重ね、時間的制約から今回の研究範囲を、気候、初対面、時間に関する挨拶に限定することとした。
- ・これらの挨拶について、アラブ圏で使われている教材の現状、アラブ人日本語学習者にとって障壁となる文化的な差異の所在、それへの対処方法の順で考察を行ない、その成果を論文として発表することとした。

## 3. 研究成果（予定を含む）

○論文（題目、掲載誌、発行者、掲載月、内容の概略（200字以内））

- ・東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』に投稿予定である。論文の題名は「エジプト人初級日本語学習者の挨拶の習得における問題と対処方法」であり、執筆の希望は届け出済みである。

○口頭発表（題目、イベントの名称、日・場所、内容の概略（200字以内））

・

○その他の活動

- ・挨拶を含めて「言語習得において障壁となる文化的な差異－アラブ人日本語学習者の事例を中心に－」と題する講義を桜美林大学と慶応義塾大学で3回行った。学生からの反応は良好であり、特に中国人留学生からの意見は日本語を学ぶ外国人からの視点であり、本研究にとって有益であった。

#### 4. 今後の活動予定

- ・得られた結果をカイロ大学の日本語学科の授業で活用し、さらにそれに対する学生からの反応を分析する。
- ・補助教材を開発し、アラブ圏で日本語教育を提供する様々な教育機関のサイトに公開する。